

## 地域団体・組織と連携する

連携に向けて	地域で活動している様々な団体や組織と連携することで、参加者が増えるだけでなく、幅広い年代層の参加へとつながります。また、日頃から協力体制を築くことで、災害時に連携した活動が可能となります。
お問い合わせ	●活動の相談：広島県自主防災アドバイザー制度（消防保安課：082-513-2790）

### STEP 1 目的に合わせ、団体・組織を洗い出します

地域内にどのような団体・組織が活動しているのかを把握し、実施したい活動に合わせ、団体や組織を決めます。

#### ■連携に有効な団体例

- 消防団
- 女性会
- 体育会
- 老人会
- 商店会
- 青年団
- 子ども会
- PTA
- など



### STEP 2 防災の大切さを理解してもらいます

いきなり活動連携を求めることは困難です。まずは連携していきたい団体・組織のリーダーや中心人物に、“防災の大切さ・必要性”を理解してもらいましょう。そのためには、簡単な勉強会の開催などが有効です。

### STEP 3 日程を確認し実施に向けた調整を行います

団体・組織と活動内容や日程を調整し、活動実施に必要な事項について、調整を行います。

### STEP 4 活動を実施し、恒例化します

活動を実施します。実施時は活動記録を取りましょう。連携した団体・組織と協力体制を築き、活動を恒例化していきましょう。

#### 活動のポイント

- 準備や調整には思いのほか時間がかかります。準備期間や調整期間を考慮し、連携したい団体・組織とよく話し合いを行いましょう。また、役割分担を明確にしましょう。
- 話し合いの時には、専門用語は使わず分かりやすい言葉で説明しましょう。
- 特に市街地では、「どのような防災知識をどの世代に広めたいか」をしっかりと検討し、連携する相手を決めていきましょう。
- 消防団は緊急時に地域と連携することは困難です。日頃からの活動で役割分担を明確にしておきましょう。

## 活動事例①：消防団と連携した防災訓練

実施地域	北広島町 都志見自主防災会
実施日	平成26年11月9日
連携団体	●消防団
連携方法	防災訓練において、避難者の誘導、AED講習、廃車を利用した救助実演などを実施した。



## 活動事例②：住民団体と連携した防災活動

実施地域	三原市 中之町下町内会防災会
実施日	平成25年6月～平成26年2月
連携団体	●児童部 ●PTA（おやじの会）

### ●活動の流れ

児童部・PTAとの連携  
連携例：防災マップ作成、まちあるき

防災活動の大切さや  
自主防災組織の必要性を理解

防災訓練への  
参加者が増加



#### 児童部の感想

活動に参加してとてもよかった。災害が身近に起きると考えることもあまりなく、普段は気にも留めていなかったため、防災を考えるよい機会になった。また、児童部として今後、子どもたちに災害時の対応を話すための勉強にもなった。



#### 活動メモ

**【活動で困ること】** 防災について理解が得られない団体・組織があった。

#### 【改善案】

- 連携したい団体・組織の特徴に合わせ、防災を日常に感じることでできるテーマを提案することで、活動への関心を引くことができます。連携には地道な話し合いを重ねることが大切です。

#### 【テーマ例】

- ①消防団と連携：定期的実施している水防訓練などを利用した活動ノウハウの習得
  - ②学校と連携：避難所としての校舎・体育館の利用方法
  - ③児童部と連携：子どもを持つ母親に向けた家庭内の防災対策
  - ④老人会と連携：高齢者に向けた避難情報の周知や通報訓練
- など